

嶋根克己学生部長からのメッセージ

秋の「収穫」に向け、有意義な夏休みを

6月初旬に予定された青衿祭が、はしかの流行で延期された。そのため黒門祭、青衿祭が7月に相次いで開催されるという本学始まって以来の学園祭ラッシュとなった。

社会的にいえば「祭り＝祝祭」にはいくつかの機能が考えられる。日常的な時間が続くと、社会や集団の活力が失われる(＝ケガレ)ので、非日常的なイベント(＝ハレ)を行うことにより、集団的活力を回復させるという考え方がひとつ。前代未聞の“はしか休校”で延期された青衿祭が大いに盛り上がりげれば、病魔は退散するというわけである。

もう少し祭りの機能を考えてみよう。非日常的な時間では、共同的な一体感の中で、日常的な秩序や思考を超越して、新たな理念や知識が創造される場合がある。それまでの歴史や伝統を踏まえつつも、それを乗り越える巨大なエネルギーの源泉となるのである。そして多くの場合、そのエネルギーの担い手となるのは若者であることが多い。

夏休みは、秋以降の収穫に向けて、なくてはならない「みのりの時期」。学生時代に4回しかない夏期休暇を有意義に過ごすことを期待している。

省エネに協力を — 環境問題に意識を向けよう！

近年、地球環境問題や、資源・エネルギー問題が深刻になっています。その対策として「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」を指針とした省エネの推進や「地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)」を基にした温室効果ガスの削減が、国を挙げて進められています。

生田キャンパスの昨年1年間での電力使用量は、1495万キロワット(2006年度、一般家庭の約3300世帯分、CO2換算で約5500トン)でした。生田キャンパスでは04年度1501万キロワット、05年度1480万キロワットの電力を使用しています。これまで旧型の照明器具を電力消費量の少ない新型に改めるなどハード面の対応を行ってきましたが、さらに消費量を削減するためには、それ以外の方策を進めることが今後の省エネには必要になってきています。

本学では05年度に省エネルギー推進委員会を発足させ、次のような協力事項を挙げて、まず教職員から省エネを推進してきました。

「授業、業務等で部屋を空室にして離れるときは、照明と空調のスイッチを切る」「事務室等で休憩や残業のときは、照明の点灯数を減らす」「パソコンの電源は、使用しないときは切る」。また、「事務室等での設定温度を冷房28℃・暖房20℃にする」といった運動も行っております。

現在、各教室やゼミ室などに電気スイッチOFFを呼びかけるステッカー、洗面所に節水を呼びかけるステッカー(〈1〉、〈2〉)を貼付するなどして学生の皆さんへ向けた省エネ運動の啓蒙もしております。

これまで以上の削減を実現するには教職員だけでなく、学生の皆さんの協力が必要です。皆さんも「省エネ」への意識を高め、できることから実行に移してみてください。

節電・節水を呼びかけるステッカー



〈1〉照明スイッチ周辺



〈2〉水道蛇口周辺

(管理課)

2007年度 学生数(学部・大学院)

◆ 2007年度 学生数(学部) ◆

5月1日現在/()内は女子内数

学部	学科	1年次	2年次	3年次	4年次以上	合計
経済	経済	592(107)	604(93)	620(115)	754(116)	2,570(431)
	国際経済	218(73)	252(84)	238(92)	245(75)	953(324)
	小計	810(180)	856(177)	858(207)	999(191)	3,523(755)
法	法律	688(198)	703(195)	953(224)	859(246)	3,203(863)
	政治	170(44)	150(49)			320(93)
経営	経営	858(242)	853(244)	953(224)	859(246)	3,523(956)
	商業	719(170)	771(175)	591(141)	664(145)	2,745(631)
	小計	809(262)	787(221)	790(215)	994(189)	3,380(887)
文	国文				3(1)	3(1)
	日本語	75(51)	79(54)	71(51)	84(53)	309(209)
	日本文学	138(92)	135(82)	126(90)	147(85)	546(349)
	小計	213(143)	214(136)	197(141)	231(138)	855(558)
	英語英米文	184(112)	164(100)	156(88)	183(99)	687(399)
	人文				6(0)	6(0)
	哲学人文学専攻	78(42)	59(34)	62(22)	82(38)	281(136)
	歴史学専攻	106(49)	94(40)	96(37)	108(38)	404(164)
	環境地理学専攻	61(24)	53(18)	49(15)	54(19)	217(76)
	社会学専攻	95(60)	97(55)	88(53)	102(45)	382(213)
	小計	340(175)	303(147)	295(127)	352(140)	1,290(589)
	心理	76(48)	52(29)	45(20)	71(43)	244(140)
	小計	813(478)	733(412)	693(376)	840(421)	3,079(1,687)
ネットワーク情報	286(81)	265(72)	224(62)	293(75)	1,068(290)	
合計	4,295(1,413)	4,265(1,301)	4,109(1,225)	4,649(1,267)	17,318(5,206)	
二部	経済	152(20)	164(20)	141(17)	240(15)	697(72)
	法律	224(43)	206(36)	198(44)	331(53)	959(176)
	商業		1(0)	165(27)	195(31)	361(58)
	小計	168(26)	146(34)			314(60)
合計	544(89)	517(90)	504(88)	766(99)	2,331(366)	
総計	4,839(1,502)	4,782(1,391)	4,613(1,313)	5,415(1,366)	19,649(5,572)	

◆ 2007年度 学生数(大学院) ◆

5月1日現在/()内は女子内数

研究科・専攻	1年次	2年次以上	合計		
経済学研究科	26(8)	35(7)	61(15)		
法学研究科	9(5)	18(4)	27(9)		
文学研究科					
日本語日本文学	7(3)	14(9)	21(12)		
英語英米文学	6(3)	3(0)	9(3)		
哲学	5(1)	5(0)	10(1)		
歴史学	9(2)	15(3)	24(5)		
地理学	2(0)	3(0)	5(0)		
社会学	2(0)	3(1)	5(1)		
心理学	8(2)	15(10)	23(12)		
小計	39(11)	58(23)	97(34)		
経営学研究科	10(4)	10(5)	20(9)		
商学研究科	30(13)	37(13)	67(26)		
合計	114(41)	158(52)	272(93)		
研究科・専攻	1年次	2年次	3年次以上	合計	
経済学研究科	1(0)	3(3)	10(3)	14(6)	
法学研究科		1(0)	1(1)	2(1)	
民法学	2(1)	1(0)	4(1)	7(2)	
公法学	2(1)	2(0)	5(2)	9(3)	
小計	2(1)		14(7)	16(8)	
文学研究科		2(0)	1(0)	3(0)	
日本文学		5(0)	5(0)	10(0)	
英語英米文学	3(2)	3(1)	9(2)	15(5)	
歴史学		1(1)	1(1)	2(2)	
地理学		3(2)	5(2)	8(4)	
社会学		5(3)	9(4)	14(7)	
心理学		1(0)	1(0)	2(0)	
小計	5(3)	9(4)	35(12)	49(19)	
経営学研究科			1(0)	1(0)	
商学研究科	4(1)	4(0)	3(0)	11(1)	
合計	12(5)	18(7)	54(17)	84(29)	
専攻	研究科・専攻	1年次	2年次	3年次以上	合計
法務専攻	法務研究科法務専攻	28(6)	58(9)	62(8)	148(23)

日本行政書士会連合会に協力

本学は日本行政書士会連合会との覚書による大学院法学研究科特別履修生(科目等履修生)を受け入れている。

今年度は40人が制度を活用し、要件事実と事実認定をテーマとした宮岡孝之教授の大学院授業科目「法律学応用特論」を受講している=写真。



やさしい英語による経済学講座

ダブリン大学・オコナー助教授講演

シリーズ「やさしい英語による経済学講座」(全5回)が6月16日から生田キャンパスで開講された。

講師は経済学部客員教授でダブリン大学ユニバーシティカレッジ生物・環境科学部経済学科のディアドブレ・オコナー助教授＝写真。第1回は「世界経済の発達におけるアイルランドの役割」をテーマに講演。めざましい経済成長を遂げているアイルランドが試みる、他の先進国とは“ひと味”違う途上国支援について語った。約40人の聴講者が熱心に聴き入った。



セクシュアル・ハラスメント防止委員会から

人間性を尊重しあって

私たちは、男性も女性もともに学び、ともに、研究・教育を行うという理想的な大学であることを目指して、今までの男性優位の世界の中で起こりがちであった、「性的いやがらせ」を無くすために活動しております。セクシュアル・ハラスメントの被害に対する相談を受けつけ、一定の基準にしたがって解決に向けた努力を行い、啓蒙・啓発活動にも努めております。私自身は、ゼミの構成員の人選でも、できるだけ女子と男子の数を同数にして、共同して勉学できるように努めています。女子学生は、いきいきと勉強にクラブ活動にと取り組んでいる人が多く、非常に頼もしく思っています。

でも、女性の研究者はまだまだ少なく、門戸も平等には開かれていないという感じがします。私は、「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」の事務局長をしていますが、今や教育における性差別は、女性の人権問題だけでなく、大きな経済損失をもたらすと評価されています。女性が専門分野に進出することで、より科学を発展させる人材を確保できます。男女がお互いにその能力を尊重しあい、暴力による支配を恥ずべきものとする人間関係の作り方を小さいころからマスターするならば、児童虐待もいじめもドメスティック・バイオレンスもない平和な世界が実現することでしょう。

女子学生も男子学生も人間関係を円満に結びうるスキルを切磋琢磨(せつさたくま)し、お互いの人間性を尊重しあって生きることが幸せな生活を保障するのです。

(岩井宜子)

《健康フラッシュ》

間に合うよ！友達づくり

時は今、試験準備の真っ最中。でも前期は試験実施科目が多くないのもう夏休みという人もいますでしょう。

振り返れば新学期はガイダンス、各種手続きと何かとあわただしく、5月の連休でほっと一息、明けて日常のリズムができるかと思った矢先の麻疹休講と、今年はなかなかペースにのれないうちに現在に至る人もいないのではないでしょうか。もしかして、ずるずると休み続けてしまったかも…？

もし、前期中あまり学校に出られなかったとしても、もうだめなんて思わないで！半期科目は後期から新たなスタートとなるわけですし、通年科目でも挽回(ばんかい)できるものもあるはず。登校再開のお手伝いには、学生相談室をご利用ください。

ところで、どうして大学に出てきにくかったのでしょうか。なんとなく億劫(おっくう)で？張り合いがなかった？友達をつくりそこねた、もう仲間はできないと思いこんでいませんか？

1年次生は、入学後まず群れをつくります。でもそのうち「本当は気が合わない」、「無理して付き合い疲れる」、など徐々に友達再編成が起こってきます。だから「気づくと皆グループになっていた」というのも一時のこと。授業科目の変わり目、ゼミの始まりなど、友達づくりのチャンスは何度も訪れるのです。大学主催の行事への参加もよいきっかけになります。

学生相談室の3つのワークショップは、ずばり仲間づくりのお役立ちメニューです。申し込みはまだ間に合います。予定がなければ、ではなく予定を空けてでもぜひ！

(学生相談室)